

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293300107		
法人名	(株)愛成会		
事業所名	はなまるホーム四街道		
所在地	千葉県四街道市鹿渡593		
自己評価作成日	令和3年1月23日	評価結果市町村受理日	令和3年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和3年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活、イベント等を通して食べる楽しみに重点を置いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者家族からの要望に応じてコロナ禍においても面会の工夫をして、窓越しでの面会やタブレット端末を使用するのオンラインによる面会を実施している。食事は3食ともに職員による手作りで温かいものを温かいうちに食べることや、季節を感じることでできる献立にしている。盛り付けやお盆拭きなど利用者もできることで参加している。コロナ禍以前は、週に2、3回は利用者と一緒に食材の買い出しに出していた。玄関先にベンチが設置してあり、近隣住民の散歩の休憩場所となっており、職員が声掛けをして交流している。また、地域のボランティアが手品や楽器演奏なども披露してくれるなど、地域と自然な付き合いができています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念に地域社会との良好な関係を創るといふ文言があり、朝礼時に唱和しています。	事務所には理念等を掲示しており、法人の経営理念を朝礼で唱和している。職員には理念や社是など重要な項目が記載された冊子を配布している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の店に入居者様と買い物に出かけたり、イベントに地域ボランティアを招へいして交流を図っていましたがコロナ禍の為中断しています。近隣の方からお米や介護用パンツの提供がありました。	自治会に加入して交流を深めようとしている。コロナ禍により現在は中止となっているが、近隣ボランティアが来訪して手品や楽器演奏などで利用者を楽しませてくれている。ホーム前のベンチは近所の人の散歩の休憩場所として利用されており、交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	四街道市の高齢者まちかど相談所として近隣住民の相談を受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、四街道市高齢支援課より通達があり運営推進会議は中断しています。	運営推進会議には市担当者、地域包括支援センター担当者、利用者家族、後見人などが参加している。今年度の運営推進会議は市の担当課からの通達により中断している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは随時報告・相談・連絡・確認を行っています。	市の担当課とは定例報告の他、今年度は新型コロナウイルス感染症対策などで指導を受け、対応を報告するなどしている。現在は中断しているが、介護相談も受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフで理解し取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会を3か月に1回実施しており、担当の職員を中心に基礎的な事項を繰り返し話しあい、議事録は職員全員に回覧している。今後は定期的に研修を実施したいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に事業所内研修を行っています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている利用者様が2名います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき、ご家族様等がわかりやすいよう説明しています。改定等があった場合も口頭の説明だけでなく書面でのお知らせをしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や来所持にご意見を伺って反映に努めています。	利用者の要望は職員が傾聴している。一人ずつ丁寧に話を聴くことで要望を聞き取るようにしている。利用者家族からは来訪時に意見を聞いており、あまり来られない家族には電話で話を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、会議等だけでなく、日々のヒアリングをすることで職員の意見や提案等を聞き、反映させています。	職員とは全体会議やカンファレンス、面談などで意見を聞いている。また、日常的にも話を聞く機会を設けている。個別のケアについての提案を受けて改善した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を用いて、目標・課題を共有し、サービス向上につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外研修に参加することで高齢者介護の知識等のスキルアップができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加し情報交換をしています。また社内研修に参加することで他事業所と交流を図りサービスの質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの際、要望等を確認しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの際、要望等を確認しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	往診、訪問看護や訪問歯科の医療的ケアが必要な利用者様にも安心して生活できるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる方にはスタッフと一緒に掃除や洗濯物たたみをしたり、食事の盛り付け、洗い物等の日常生活を共に送る者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、、面会がいつでもできるように対応しています。7月からオンライン面会を始めご利用いただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣へ散歩など行うことで馴染みの人、場所との関係性の維持に努めています。	散歩のコースを工夫して馴染みの関係が継続できるようにしている。また、年賀状を出したいという利用者には手伝っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、食事等でスタッフが間に入り入居者様が孤立しないよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関、ケースワーカー、家族、後見人と連携し、受け入れ先や今後の方向性を検討しています。契約終了後もご家族が来訪しやすい環境を作っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方らしく生活を送ることができるよう検討しています。	入居時には本人や家族から話を聞き、ニーズの把握に努めている。入居後は日々のケアの中で聞き取り、介護記録に残している。コミュニケーションに制限のある利用者の意向などは、言い方を変えてニュアンスを感じ取るなどの工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスを開催し現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に合わせた計画書を作成するよう努めています。	利用者のニーズを踏まえた介護計画を作成し、6か月ごとにモニタリングを実施し、モニタリングの結果をもとに、本人・家族・介護職員・管理者等で担当者会議を実施し、見直している。会議に参加しない家族には、面会時などに説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化等を介護記録に記入し、朝・夕の申し送りを行情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	HP受診の送迎等困難な場合、HPまでの送迎を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為外部ボランティアは招待及び、地域イベント参加を自粛しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望により、掛り付けの医療機関や外部受診先を選択して頂いています。	利用者・家族の同意を得て、ホームの協力医がかかりつけ医となっており、月2回の訪問診療がある。訪問看護師も週1回来訪し必要な処置をしている。そのほか、専門医の受診は家族に依頼するなど、利用者の受診支援や健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護師の来訪時に日々の状態等を報告し、適宜助言を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー、病棟看護師等との連携を密に図り、退院前にカンファレンスを開催していただき参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階から、看取りについての契約を締結しています。	「重度化した場合の対応に係る(看取り)指針」を整備し、契約時に本人・家族に説明している。医師が回復の見込みがないと判断したときは、改めて家族と話し合い、同意を得て看取り介護に入っている。また、看取りに関する職員研修も実施し、全員で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のフローチャートに基づき、対応できるよう実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との連携を図り、定期的な避難訓練、自主訓練を行っています。	年2回、地震や火災を想定し避難訓練を実施している。昨年は夜勤者も参加して、夜間を想定した訓練もおこなっている。訓練では職員の役割分担を決めており、非常時に動けるようにしている。食料や水、発電機など備蓄品も用意している。	災害時における地域との協力体制を作るため、自治会との関係づくりも望まれる。運営推進会議などの活用もよいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意向、訴え等を否定することなく受容、共感の精神をもって対応しています。	利用者を尊重した支援に取り組んでおり、一人ひとりと向き合い、本人のことばに耳を傾け、訴えを感じ取っている。プライバシーにも配慮し、個人的な話は居室で聞いたり、部屋に入る際は、必ずノックし、声をかけて入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を抑制する言葉は使わず、時間を掛けて傾聴し、思いを汲みとるよう取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールに固執せず、各人のペースに合わせて柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた時、TPOや季節柄に応じた服を着れるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人それぞれ出来る範囲で、調理や盛り付けなどの準備、配膳や食器洗いなどを手伝って頂いています。	食事は職員の手作りで毎日温かいものを提供している。利用者もできることは手伝っており、盛り付けやお盆を拭いたりしている。お正月やひな祭り、クリスマスなどは行事食にしたり、誕生会ではみんなでケーキを食べるなど楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者ごとに食事量、水分量の記録を取り、体調や希望に応じて食事、水分の量を調整して提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを全利用者様行う際仕上げ磨きなど介助、夕食後は義歯の洗浄消毒をしています。、訪問歯科の指導により個別に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄間隔を把握し、尿、便意のサインを見逃さないようにし、トイレの声掛けを行っています。	トイレでの排泄を支援し、立位の取れる利用者はトイレに誘導している。職員は利用者の排泄間隔を把握し、適切な声掛けや誘導、見守りなどで排泄の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化に良いもの、繊維質や乳製品等を考慮し、水分量を多めにするなど必要に応じて対応しています。適宜、薬剤を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を設定せず日々の状態を確認し対応しています。入浴拒否があった際も無理をせず時間や人を変えて声かけするなど利用者様の希望に沿って対応しています。	お風呂は毎日沸かし、週2回の入浴支援をおこなっている。入りたくない場合は無理強いないで、時間を置いたり職員を変えたり工夫している。また、足浴にすることもある。季節には菖蒲湯やゆず湯で入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なりネン交換、好みに合わせた電灯の照度や室温等、調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時の薬の変更には特に注意を払い、医師と薬剤師との情報共有と薬剤情報を参照、医師と薬剤師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前後の手伝い、ゲームや歌を織り交ぜた体操をスタッフと一緒に役割や生き甲斐をもっといただくことで気分転換を図る支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・施設近辺ですが外気浴を提供するように努めています	コロナ禍であり現在は外出を自粛している。以前は食材を買いにスーパーマーケットに職員と行ったりしていた。今は、出来る限り外気浴などで外に出るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い立替金制度を導入し、買物等の希望があった際は適宜対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族等とお話しされたい時には相手先の都合も考慮しオンライン面会やハガキやり取り対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時はカーテンを閉める、寒暖差がある時は空調管理をしています。季節ごとに各階で利用者で作成したものなどの飾りつけをしています。	食堂兼リビングはゆったりとしており、利用者が寛いでいる姿が見られた。ソファも置かれ、ひとりになれる空間もある。日差しや温度・湿度をまめに調節し居心地よく過ごせるようにしている。現在はコロナ禍であり、より換気や加湿に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士、隣の席を用意し、会話が弾むような配置等を行っています。休みたい場合は居室で休まれます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の大切にされていた物、馴染み物の持ち込みをしていただいたり、居室には自由に入出入りして頂き、気の合う仲間同士が交流する場を提供するなど安心して生活を送れるようにしています。	利用者はタンスや椅子・テーブル、仏壇、テレビなどの使い慣れたものを持ち込んでいます。利用者同士の行き来もあり、楽しく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下等、必要箇所に手すりを設置。トイレ居室に表札を掲示しご自身がお一人で居室へ戻るようにしています。		